

一般社団法人 日本医療薬学会
平成 22 年度第 1 回定例理事会 議事録

一. 開催日時：平成 22 年 3 月 4 日（木） 14 時 00 分～17 時 00 分

二. 開催場所：日本病院薬剤師会会議室

三. 出席者

会 頭：北田 光一

理 事：安原 真人、山田 安彦、井関 健、大石 了三、大森 栄、
草井 章、谷川原 祐介、林 昌洋、山田 勝士、堀内 龍也

監 事：黒田 和夫

年会長：佐々木 均（第 19 回年会長）

陪席者

事務局：松本 とみ恵、星 隆弘

四. 議長：北田 光一

五. 会議の成立

定刻において、議長より開会が宣言され、本理事会は理事 11 名の出席があり、定款第 38 条に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨報告された。

六. 議事の経過の要領及びその結果

1. 平成 21 年度第 6 回定例理事会の議事録確認

議長より、議事録について確認の上、追加訂正があれば本会議終了までに申し出いただくよう依頼があった。

2. 協議事項

(1) 平成 22、23 年度 推薦理事・監事候補について

安原副会頭より、資料に基づき、昨年 10 月の平成 22、23 年度理事候補者選挙の当選者で構成された理事候補者推薦委員会の協議によって選出された平成 22、23 年度推薦理事・監事候補を含む新役員体制に係る説明が行われた。平成 22、23 年度理事候補者選挙により選出された 14 名（当選者：15 名、後に職務の都合により 1 名辞退）と 6 名の推薦理事候補（新任 2 名、再任 4 名）を合わせた 20 名の理事候補と 3 名の副会頭候補に関する推薦理由等の説明があり、協議した結果、原案どおり全会一致で承認された。

また、本理事会として 2 名の推薦監事候補（新任 1 名、再任 1 名）の選出について、協議した結果、原案どおり全会一致で承認された。

(2) 平成 22、23 年度 委員会編成について

安原副会頭より、平成 22、23 年度委員会構成案として、各委員会の委員長および担当副会頭のリストが資料として提示され説明が行われた。協議した結果、「企画運営・広報委員会」の中に設置されている「広報・会報小委員会」と「企画・シンポジウム

小委員会」を各々独立した常置委員会とし「広報委員会」と「企画・シンポジウム委員会」とすること、また、「専門薬剤師育成委員会」の中に設置されていた「糖尿病療養士育成小委員会」と「感染制御育成小委員会」を廃止し、「専門薬剤師育成委員会」の中で、今後の薬剤師の専門性を認定する制度について、諸事項を整理しながら検討することについて、全会一致で承認された。

なお、当該協議の補足事項として、本年4月から始まる新役員・委員会体制下で学会活動を円滑に進めるために、各委員会の委員候補者は自らが担当する委員会委員の構成案を策定し、今月23日までに学会事務局に当該構成案を提出するよう周知された。

(3) 平成21年度事業報告について

大森理事より、資料に基づき、平成21年度の実業報告の説明が行われた。協議の結果、当該報告の内容を再度確認し、本年3月27日に開催される第2回定時社員総会の資料とすることが全会一致で承認された。

(4) 平成21年度決算報告について

大石理事より、資料に基づき、平成21年度の決算報告の説明が行われた。協議の結果、当該報告の内容を再度確認し、本年3月27日に開催される第2回定時社員総会の資料とすることが全会一致で承認された。

(5) 平成21年度監事監査報告について

黒田監事より、資料に基づき、平成21年度の監事監査報告が説明され、平成21年度の実業報告及び会計報告に係る監査した結果、適切に実施された旨が報告された。

(6) 平成22年度公開シンポジウム開催について

林理事より、資料に基づき、平成22年度公開シンポジウムについて説明が行われた。平成22年度は、5種類のテーマとその選定理由、開催地及び実行委員長の候補案に係る説明ならびに依頼・内諾状況が報告された。協議した結果、全会一致で承認された。なお、補足事項として、公開シンポジウムの運営ならびに経費の取り扱いに差異が生じないような基準等の策定案を、林理事が担当することとなった。

(7) がん専門薬剤師の認定について

谷川原理事より、資料に基づき、本年1月及び2月にメールによる理事会稟議が行われたがん指導薬剤師及びがん専門薬剤師研修施設の認定審査ならびに認定状況が報告され、がん指導薬剤師に準ずる者として141名、がん専門薬剤師研修施設として212施設を認定したことが報告された。

続いて、去る3月3日に開催されたがん専門薬剤師認定制度委員会で審議されたがん専門薬剤師及びがん専門薬剤師研修施設（追加認定）の認定審査結果に関する説明が行われた。協議した結果、がん専門薬剤師認定制度委員会の審議結果のとおり、がん専門薬剤師として69名、がん専門薬剤師研修施設として2施設を認定することが全会一致で承認された。また、広告可能な専門薬剤師制度として、3月5日付で厚労省に「専門性資格認定団体に係る基準該当届」を提出することが報告された。

(8) 平成22年がん薬物療法海外派遣研修員について

大石理事より、資料に基づき、当理事会の直前に開催された平成22年がん薬物療法

海外派遣研修員に係る選考委員会において協議し決定した選考結果、選考理由及び付帯事項の説明が行われた。協議した結果、原案のとおり、今年度の派遣研修員として4名を本年6月4日から開催されるASCOとミシガン大学病院での2日間の研修に派遣することが全会一致で承認された。なお、今年度の当該研修の団長は、谷川原理事が担当することとなった。

(9) 認定薬剤師の更新保留について

山田(勝)理事より、資料に基づき、昨年度10月中に受け付けた認定薬剤師の更新申請に手続きできなかった者から提出された保留申請に係る嘆願について説明が行われた。協議した結果、当該嘆願者は更新申請の案内時から受付時、そして現在に至っても海外留学中であるために、更新申請情報が手元に届かなかった(平成22年に入ってから更新情報を認知した)という点を鑑み、保留申請を認めるということが全会一致で承認された。

(10) 平成21年度会費未納者からの会費納入に係る要望について

北田会頭より、資料に基づき、前年度会費未納者から提出された前年度分の会費納付に係る嘆願の取り扱いに関する説明が行われた。協議した結果、手数料として10,000円を追徴し前年度会費の納付を認めることとすることが、全会一致で承認された。また、今後同様の事例が生じた場合には、今回と同一対応(手数料として10,000円を追徴)することです承された。

(11) 会員名簿広告料・印刷費について

大石理事より、資料に基づき、今年度制作予定の会員名簿に係る広告費の募集案内ならびに制作に係る見積りについて説明があった。協議した結果、前回の広告料の募集額180万円を見直し、今回の募集額を210万円とすること、ならびに、印刷製本代について複数社から見積もりを取ったところ、各社間に大きな差が見られたため、引き続き割引交渉を続け、最終的に安価になったところに作製を依頼することが全会一致で承認された。

(12) その他

北田会頭より、年々、本学会の年会参加者が増す一方で、参加者が聴講できるだけのキャパシティーを有する会場の選定やプログラム編成などについての今後の在り方を整理するための提議が行われた。協議の結果、次期役員による理事会の中で、継続的に議論をするということで意見が一致した。

3. 報告事項

(1) 第19回年会報告

佐々木年会長より、10月24、25日に開催された第19回年会の開催報告として、年会の趣旨、事業内容(プログラム等)、参加者数(総参加者数4,563名(うち、海外からの参加者62名))、事業成果、決算報告ならびに公認会計士による会計監査報告の説明が行われた。

(2) 第20回年会準備状況報告

北田会頭より、平成22年11月13、14日の両日、幕張メッセを中心とする会場で開催することならびに当該年会の開催に係る準備状況が報告された。

(3) 第21、22回年会開催について

北田会頭より、資料に基づき、第21、22回年会の開催予定について、第22回年会の開催日程、開催場所及び年会長として、平成24年10月27、28日の両日、新潟・朱鷺メッセにおいて、年会長：佐藤 博・新潟大学医学部附属病院薬剤部長に決定したことの報告があった。

(4) 委員会報告

林理事より第2回企画・シンポジウム小委員会（平成21年12月8日開催）、谷川原理事より第1回がん専門薬剤師認定制度委員会（平成22年1月21日開催）の委員会議事録の報告があった。

(5) 後援依頼への回答について

北田会頭より、がん医療研修機構より後援依頼があった、同機構が主催する「第9回オンコロジーセミナー」（平成22年4月24日開催）について、本学会として後援を承諾したことの報告があった。

以上をもって議事の全部の審議及び報告を終了したので、議長は17時00分に閉会を宣言し、解散した。